



第 125 号  
 発 行 者  
 東筑摩塩尻教育会  
 編 集 者  
 会誌会報委員会

つなぐ つながる つなげよう

東筑摩塩尻教育会長 高山 雪



本年度、塩筑教育会の会長という大役  
 に就き、どのような教育会を目指したい  
 か考えたとき、やはり「人と人とのつな  
 がりを大切にする教育会」だと思いまし  
 た。教育は人なり。このつながりこそが  
 教育の原点です。それぞれの学校で、学  
 校間で、教科等研究会で、各種委員会  
 ……等、つながることによって多くの  
 学びを得て、我が身の成長の糧となつて  
 います。困ったときには助けてもらえま

す。支えてもらえます。時には厳しい言  
 葉で叱咤激励してもらえます。共に喜  
 びを分かち合ってもらえます。そうやっ  
 て、塩筑教育のはじまりから、脈々と教  
 師としての人間の成長や職能向上を果た  
 してきたはずです。ですから、人と人  
 のつながりに根差した教育本来の姿を目  
 指して参りたいと願うのです。

現代は、人と直接つながることをせず  
 に安易に生活することができるよう世  
 の中になっていきます。欲しいものがあれ  
 ば、家に居ながらにしてネット注文で手  
 に入ります。人間関係の煩わしさを感じ  
 ずに、機器を使えばいつでもどこでも自  
 由に遊ぶことができます。

かつて旅行はとても大変な手間も時間  
 もかかりましたので、個人で行くのは困  
 難でした。ですから、学校の仲間で行く  
 職員旅行は本当に楽しみな行事でした。

職員作業で漬けた漬物を肴に、宿直室で  
 先輩と語り合ったのは、時には厳しいご  
 指導もいただきましたが、たくさんのご  
 とを学ばせてもらった懐かしい思い出で  
 す。人とつながることが日常であり、全  
 てが人とつながるところから始まってい  
 たように思います。



私の一文字は「つなぐ」の「繋」です。  
 両小野中学校に赴任した年でしたので、  
 新たな環境で新たな生徒や先生方、保護  
 者様とつながり、コミュニケーションスク  
 ールの推進で今までにない多くの地域の方  
 とつながり、私の教員人生で最も人との  
 つながりを痛感した一年であったからで  
 す。私と同じ「繋」を書いた生徒や先生  
 もおりました。思いは違ってもかもしれま  
 せんが、つながることの意味を意識するよ  
 うな何かがあったのでしよう。

新たな環境に身を置くことは、私たち  
 には避けては通れない道です。異動する  
 たびに緊張し、不安や孤独にさいなま  
 れます。しかし、学校という現場には、不

安を喜びに、緊張を期待に変えてくれる  
 子どもたち、そして同僚たちがおります。  
 子どもや同僚とのつながりから、自分自  
 身の存在を肯定でき、「この学校」から「自  
 分の学校」に意識が変わっていきます。  
 初めてお会いする人とつながるため  
 ますするのは、本当に当たり前のこと  
 が、名前を覚えることです。若い頃から  
 そうでしたが、新しい学校へ赴任した初  
 日に名前前で声を掛けると、先生方は驚い  
 て急に笑顔になります。一度に何百人と  
 という生徒の名前を覚えなければならな  
 かった音楽教師の頃の苦勞を思えば、何の  
 ことはありません。つながりの第一歩を  
 踏み出すと、自然にコミュニケーション  
 へと発展できます。

生徒たちとも同様です。特に昨今は授  
 業をしていないので、廊下ですれ違えば  
 挨拶がてら名前を聞き他愛もないこと  
 を話したり、教室に入り込んで名前をネ  
 タに生徒たちと会話したりして、自らつな  
 がりを求めます。「先生たち」や「生徒  
 たち」から「○○先生」や「○○さん」  
 になった時、その先生やその生徒を見つ  
 めますし、その人との関わりが始まりま  
 す。そして、次への発展となっていくま  
 す。それは、喜びの共有から厳しい指導  
 まで、幅広い関係を可能にしてくれます。

今、人とつながることは、殊更に求め  
 ていかなければならないのかもしれない  
 せん。だからこそ、自らつながりを求め、  
 教師としての人間的な成長や職能向上を  
 目指したいのです。「教育は人なり」を  
 実現しましょう。  
 (両小野中学校)

## 特集 ◆平成二十八年度 東筑摩塩尻教育会総集會

### 會員発表

#### 会誌会報委員会の活動 より

百瀬みさ子

会誌会報委員会の主な活動は、文字通り会誌と会報の発行です。

会報を一学期に一回、二学期に一回、計二回発行し、会誌は年に一回、三月に発行します。

平成二四年度以前は会報を毎学期発行していたのですが、三学期は会誌の発行と編集時期が重なり負担が大きいため、今のように一学期と二学期のみ会報を発行する形になったそうです。

会誌会報委員会では、研究主題を、「教育会員の教育実践や 各校の活動紹介を中心とした 親しみやすく読みやすい会誌会報の発行」と据え、委員会開催回数十回、取材を含めると全十二回の活動を計画し、運営にあたっています。

まず、七月発行の会報ですが、会報の内容は、「巻頭言」「特集『塩筑教育会総集會』」「教育会組織」「本年度事業計画」から編成されており。

例年、五月中旬に行われるこの教育会総集會を特集記事として掲載しております。

す。そのため、その年度の会誌会報委員が五月下旬に正式に組織される前から、會員発表と感想の原稿依頼を進め、総集會当日は掲載用の写真撮影と講演会録音の取材にあたります。

委員会として組織されてから、提出していただいた原稿を委員会で二回校正いまして、校正原稿とデータを印刷所へ送ります。その後、最終校正用のゲラ刷り原稿を、印刷所から委員長と世話係の校長先生の勤務校へ直接届けてもらい、世話係の校長先生と委員長で最終校正をいたします。

この最終校正の段階になってもまだ直す必要のあるところが見つかるもので、たった三日ほどしかない期間で、大急ぎで世話係の校長先生と連絡を取り合い、少々緊迫した最終チェックを行います。

そのような最終校正を経て、七月十日に第一二三号が発行されました。

巻頭言は塩筑教育会長の塩原校長先生よりご執筆をいただきました。各学年の「子ども心」を詠んだ数々の言葉の中から伝わってくる、塩原校長先生の子どもたちに向けてられるまなざしの温かさに、私も含め、目の前にいる子どもたちの見方を見つめ直し、考えさせられた先生方も多かったのではないのでしょうか。また、木曾榎川小の永原美香先生の会

員発表と、総集會の感想として片丘小学校の荻原美雪先生と塩尻東小の高木彩子先生、広丘小の川上麗子先生にご寄稿いただいたものが掲載されています。

せっかくの會員発表を、当日会場に足を運ばず、聴くことのできなかった會員の先生方に内容を知っていただくことはもちろん、参加された先生方にとっても、貴重な教育実践をその時だけのものとせずに改めてふり返ることで、さらに学ぶことができる機会になったのではないかと思います。

また、講演会や合唱発表を含めた総集會全体の感想が掲載されることで、「なるほど、そんな感じ方もあるのか」と、自分が感じたものとまた違った様々な角度からの考えにふれ、改めて総集會の内容を見つめ直し、味わい、深めるという意義があるのではないかと思います。

さらに、教育会組織や本年度の事業計画を掲載し、教育会員の先生方に広く知っていただく機会となっています。

さて、七月発行のこの会報の校正を進めながら、会誌の方の準備も始めていきます。

およそ一九〇ページにも及ぶこちらの会誌の内容は、「学校紹介」「巻頭言」「講演」「一般會員の先生方の原稿」「研修報告」「研究委員会と同好会の活動報告」「塩尻教育会・中央教育会・北部教育会の地区教職員だより」「誌上書写書道展」「教育会だより」「教育会組織」などになっておりますが、六月の第一回の代議員会の折

に、代議員の先生方に、学校紹介と、一般會員の先生方の原稿のお願いをします。学校紹介は会誌の巻頭グラビアとして毎回二校の掲載をしており、平成十九年に作成された塩尻支会、中央支会、北部支会の各校が、順次掲載されるように組まれた掲載計画に沿って掲載依頼をしています。

昨年度は朝日小学校さんと丘中学校さんにお問い合わせをし、美しい写真とともにご寄稿いただきました。会誌と会報すべてを通して、カラーになっているページはこのみです。

会誌の原稿は、代議員の先生方にご協力をいただき、塩筑内の全学校より原稿をお寄せいただいています。内容は「研究発表」「教育実践」「視察報告」「随筆」など多岐にわたっております。各校、ご負担な面もあるかと思いますが、教育の現状を先生方が内側から語られたり、直接教育と関係はなくても教育を生業にしておいでの方が日々の思いを語られたりするとは、子どもを念頭において自分の営みの意味をもう一度自分で意味づけし直していくことや、それを会誌という形にすることで、読まれた會員の先生方皆で共有できるという、執筆された先生と読者の先生方の両方向で価値があるのではないかと思います。

会誌は原稿の数が膨大になりますので、一般會員の先生方の原稿は十月にご提出いただき、続いて研修報告、そして研究委員会の活動報告といった具合に、三月

発行に向けて順次校正を進めていきます。次に、会報一二四号について紹介させていただきます。

この会報では、塩筑校長会長の三澤校長先生に巻頭言のご執筆をいただきました。

校長先生の初任時代の実践を例に、この授業が子どもたちの生涯を方向付けるかもしれないという思いを胸に、臆することなく子どもたちの可能性を切りひらいてほしいと、わたくしどもにエールを送ってくださいています。

十二月発行の会報では、毎年、その年度のタイムリーな話題を特集テーマに設定して記事を選んでおります。

昨年は、世話係の両角校長先生をはじめとした委員会で相談し、特集テーマを「我が校の地域連携教育×コミュニティスクールを見据えて」と設定いたしました。二九年度から発足するコミュニティスクール立ち上げに向け、各校でその地域の特徴を生かした取り組みがさかんに進められているところで、推進の様子を幅広く紹介できれば、どの学校にとっても今後の取り組みに向け参考になると考え、このような特集テーマに設定しました。

テーマが決まったところで、取り組みが進んでいる学校や、偏りのない学校の規模、過去の原稿依頼の様子などから、執筆をお願いする学校を選び、原稿依頼をします。今回は、麻績小学校、生坂中学校、桔梗小学校、塩尻中学校にお引き

受けいただき、尊い実践を紹介していただきました。

最後になりますが、会誌会報委員会の仕事は、会員の先生方皆様のご協力のおかげで成り立っております。これまで紹介させていただいた以外でも、会誌では毎年図工美術研究会の先生方に扉絵や挿絵として珠玉の作品を提供していただいたり、書写書道同好会事務局の先生には誌上書道展用に作品を編集して提供していただいたりしています。原稿執筆の期日につきましても、各校の先生方が本当にお忙しい中、間に合うように努めてくださったおかげで、円滑に編集・校正の仕事を進めることができています。

これから会誌会報委員会が発足し、会誌会報発行に向け、編集、校正の作業を進めて参ります。このように会員の先生方皆様のご苦勞でできあがっている会誌会報を、一人でも多くの先生方に読み味わっていただき、共有できることを張り合いに活動を進めて参りますので、ぜひ、お手を取ってご一読いただければ幸いです。

(宗賀小学校)

## 会員の感想

### 東筑摩塩尻教育会総集會

#### 感想

太田 喜博

会員発表では、宗賀小学校百瀬みさ子

会員の「会誌会報委員会の活動より」の発表が行われました。会報の発行は、年

二回（一学期と二学期）行われ、会誌は三月に一回発行されることでした。

会誌会報委員会では、研究主題を「教育会員の教育実践や各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行」とし、活動をされていることでした。机の上に配られている会報や会誌にあまり目を向けていなかった自分ですが、今回この原稿を書くにあたり、会誌会報委員のみなさんがご苦勞をされて発行に至っていることに共感することができました。更に、会報の発行にあたり講演会や合唱発表を含めた総集會全体の感想が掲載されることで「違った様々な角度からの考えにふれ、改めて総集會の内容を見つめ直し味わい深める意味がある」という願いが込められていることが分かりました。また、会誌では二つの学校紹介の他色々な企画が掲載されていることが分かりました。これまで、あまり目を通さずにいたことをこの機会に改めていこうと思うことができました。

上條恒彦さんの「音楽と語りのつどい」では、冒頭で話されていたように、上條さんはお風邪を召しているようでしたが、会場中に響き渡る声、しみいるような語りでいくつもの歌や思い出話などをしてくださいました。上條さんは朝日村の生まれで、塩尻に来た思い出として小学二年生の頃の話をされました。「十一kmくらいの道のりを歩いてきたが、その時の

担任の先生も木の義足をつけながらも一緒に歩いてきてくれた」とのエピソードを聞き、子ども達に寄り添うことの大切さを改めて感じました。その後は、平和に関する歌を紹介してくださいました。歌声に感動すると共に、平和への願いを強く感じる事ができました。永六輔さんの「生きていく」ということは「誰かに借りを作る」ということでは、「誰かに借りを作ること。その借りを返していくこと。誰かに借りたら、誰かに返そう。誰かにそうしてもらったように誰かにそうしてあげよう。」という言葉に考えさせられました。「周りの人から受けたら、もう少し頑張れそうな気がしました。福島や熊本などの人達への「花は咲く」「見上げてごらん」の歌声を会場で届ける中で、自分も勇気づけられながら、心地よいひとときを過ごすことができました。

(筑北小学校)



## 総集會に参加して

大久保法子

昨年度から塩尻市にお世話になり、総集會の参加は今年度で二回目となります。今年度は、接待係として裏のお手伝いをさせていただくことになりました。今年度の講演會は、上條恒彦氏の「音楽と語りのつどい」です。リハーサルのため早めにみえた上條氏は、控室でも真剣な打ち合わせをいらつしやいました。緊張しながらお茶を出したことを覚えています。リハーサルで聞こえてくる歌声は、とても七十代とは思えない張りのある歌声でした。

準備が整い、総集會が始まりました。接待の後片付けに時間を取られ、音楽教育研究会の方の開會音楽を会場で聴くことはできませんでしたが、もれ聞こえる音楽に心が洗われる思いがしました。会長挨拶では、「人とのつながり」「きずな」ということの大切さについて、お話がありました。学校として、教職員として、人とつながるといふ喜びを子どもたちに伝えたいという高山会長の言葉に、この時代に、自分ができることは何だろうと考えさせられました。

會員発表の後はいよいよ講演會です。一般の方々も大勢見えていました。地元朝日村のご出身ということで、朝日村から来られたのかなと思われる方も多かったように感じました。塩尻に初めて来た時の思い出、子ども

の頃の思い出、尊敬すべき先生との思い出と続けてお話ししてくださいました。「襟裳岬」「さとうきび畑」「花は咲く」など聞き覚えのある曲も続き、知らないうちに上條氏の世界に引き込まれていくようでした。「この頃の気温の変化で声が出にくい」と話しておられましたが、ステージではそれを感じさせない歌声でした。「生きていること、それは、誰かに借りを作ること」「生きていくこと、それは、誰かに借りを返していくこと」という言葉が心にしみました。

ステージが進むうちに涙が止まらない自分がいました。一曲一曲にメッセージがあり、語りの中にも平和へのメッセージが込められていました。この気持ちをこの感動を大切に、自分のできることを精一杯やっていきたいと思いをあらたにしました。

今回、役員の先生方が様々な準備をして総集會に臨んでいることを目の当たりにしました。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。この総集會で学んだことを、自分の毎日に少しでも生かしていきたいと思えます。(吉田小学校)

## つながるといふこと

井原 舞

「つながりを大切に」

東筑摩塩筑教育會の会長挨拶で、高山雪先生がおっしゃっていた、この言葉が総集會のすべてであったように思います。

様々な「つながり」を感じられた一日でした。

総集會は、音楽研究会の先生方による開會音楽で始まりました。

高山先生の会長挨拶では、「絆」という文

字は半分の糸を結んでできる、だから地域・子ども・保護者とのつながりを大切に。」という言葉が心に残りました。教職二年目の私は、この一年間で特に子どもとのつながりを大切にしたいと思っています。そのためにも、子どもたちと対一で話をする時間を設けようと考えています。一人一人と向き合うことで、これまで見えなかったことが見えてきました。子どもたちと向きあう時間を設けようと心がけるようになると、子どもたちから話しかけてくれることが多くなり、嬉しい気持ちになります。こうした授業以外の子どものつながりを大切にしたいです。

上條恒彦先生の講演會では、特に「顔や名前が覚えていないが、なぜか話した内容を覚えていて」という、高校時代の国語の先生のお話を楽しくそうにされている様子が印象的でした。私も中学時代の国語の先生が非常に印象に残っていたか



らです。その先生が授業で故事成語を学習した時に歌っていた曲や、授業後に研究室へ行ったときに話してくださった古典の話は未だに覚えています。顔や名前は覚えていませんが、先生から学んだことは今の私につながっています。私も子どもたちの未来につながる何かを残せたいと思います。

また、上條先生が歌われた『生きていくということ』という曲の「生きていく」ということは、誰かと手をつなぐこと、つないだ手のぬくもりを忘れないでいること」という歌詞、そして上條先生のことまでも響き渡る歌声を聴いて、人と人との「つながり」は生きていく上で当たり前のことですが、しかし非常に重要なことなのだと感じました。

今回の総集會では、教科等研究会発足を越えた教員同士の「つながり」に始まり、高山先生が大切にされている地域・子ども・保護者との「つながり」や、百瀬先生による會員発表での会誌を通じた教職員の「つながり」、開會音楽での教職員の優しさあふれる歌声と、上條先生の心を揺さぶるような力強い歌声によって生まれた参加者との「つながり」など、多くの「つながり」を感じることができました。

子どもと教職員、保護者と教職員、地域と教職員、それぞれの「つながり」をどれも大切にして過ごしていきたいです。(塩尻西小学校)

# 塩筑教育会組織

平成二十八年年度

## 役員

会長 高山 雪(両小野中)  
 副会長 小林 正幸(片丘小)  
 理事 横山 義雄(事務局長)  
 塩原 義郎  
 田中 公男  
 小坂 幸恵(書記)

監事 窪田 尚幸(坂井小)  
 中島 文子

常任委員長 赤津 勝広(宗賀小)  
 副委員長 横山 卓朗(塩尻東小)  
 常任委員 小澤 弘明(生坂中)  
 小沢 智子(麻績小)  
 山中 秀樹(朝日小)  
 宮川源三郎(生坂小)  
 櫻井 隆夫(塩尻西部中)

代議員会 議長 小坂 寿樹(両小野中)  
 副議長 龍野 守(洗馬小)

中野 邦彦 高坂由美子 保坂 尚貴  
 松岡 昭彦 手塚 俊彦 田村 秀則  
 安江 克也 武井 俊之 山崎 公子  
 大久保法子 齊藤 芳樹 滝沢 聖二  
 内川さつき 望月 秀明 中澤 真知  
 召田 和美 吉江 哲也 森田 茂  
 丸山 博 林 伸次 田野 公章  
 齋藤 浩明 細山 和寿 小林 真  
 名取 充 木船 威 仲 弘久  
 宮下智恵美 大野 征二

## 本年度事業計画

一 各種研究委員会の推進について

### 1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩筑教育会の目的である「会員相互の研鑽により、職能の向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点をふまえて進めていく。

- (1) 研究や実践、ならびにそれらの情報収集・交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。
- (2) 塩筑教育の課題を解決するため、できるだけ会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。
- (3) 塩筑教育の進展を期するため、会員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をすする。

### 2 研究主題および委員名

(◎) 世話係 ○ 委員長

#### 課題追求部

##### 小中連携(塩尻1)

小中学校での学習面、生活面での指導のあり方について連携を深める。

◎小林正幸(片丘小) ○北野里美(丘 中)

宮内利浩(吉田小) 塩原 篤(桔梗小)

大池あゆみ(広丘小) 丸山 真(片丘小)

竹下俊明(広陵中)

##### 小中連携(塩尻2)

中学校へのスムーズな移行のための小中学校での学習・生徒指導のあり方について連携を深める。

◎柳生高広(塩尻中) ○金森晴彦(両小野中)

小泉豊土(木曾橋川小) 塩原京子(塩尻東小)

中野博文(洗馬小) 山内三幸(塩尻西小)

百瀬みさ子(宗賀小) 名取 充(橋川中)

中村 功(塩尻中) 高松陽子(塩尻西部中)

##### 小中連携(中央)

中学校への期待感を高める小中連携はどうあったらよいか。〜中一ギャップを越えて〜

◎中澤美三(山形小) ○松井秀文(山形小)

清水朋子(朝日小)

##### 小中連携(北部)

小中の学習面、生活面での指導のあり方についての連携を深める。

◎岩下史弥(聖南中) ○仲 弘久(聖南中)

坂積利通(筑北小) 森田 茂(坂井小)

中澤真知(生坂小) 吉江哲也(麻績小)

桑原 清(筑北中) 木船 威(生坂中)

##### 学力検討

東筑摩郡及び塩尻市の児童生徒の学力の実態分析及学力向上への提案を行う。

◎森泉雄二(桔梗小) ○高梨秀隆(聖南中)

田野公章(丘 中) 原 貴志(広丘小)

小口往子(塩尻西部中) 太田喜博(筑北小)

#### 専門部

##### 道徳教育委員会

今までの経験や体験を自分の言葉で大切にしながら伝え合い、友と関わる中で道徳的価値を深めていく道徳のあり方。

◎上條令子(木曾橋川小) ○佐々木清一郎(塩尻西部中)

津田 守(吉田小) 北原美枝(片丘小)

古旗美保(桔梗小) 楠田美由紀(塩尻中)

大久保あきほ(朝日小) 大久保慧(筑北中)

#### 作品展運営部

##### 書道展委員会

児童・生徒の書写力・鑑賞力を高め指導者の資質の向上を図るための県展の審査および巡回書道展の企画運営。

◎宮川源三郎(生坂小) ○浅野敦子(桔梗小)

大久保法子(吉田小) 笹川美佐子(広陵中)

竹平三枝子(朝日小) 二木崇夫(生坂中)

##### 科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成。

◎松澤貴幸(広丘小) ○倉科ゆり(塩尻西小)

安達 薫(吉田小) 新谷俊博(両小野中)

白金清美(山形小) 塚原章治(坂井小)

##### 美術展委員会

各校の児童生徒作品の研究を通して、児童生徒の表現に対する「見る眼」を養う。また、巡回展を通して多くの児童生徒が様々な作品と接し、美的感覚を高めることに資する。

◎田畑卓朗(丘 中) ○太田浩介(生坂中)

北村知香(宗賀小) 松村弘文(桔梗小)

齋藤浩明(丘 中) 市川忠宏(山形小)

##### 読書感想文委員会

児童生徒が、読書の楽しさを感じ得るような読書感想文の書き方の指導はどうあったらよいか。

◎赤津勝広(宗賀小) ○笠原佳子(広陵中)

手塚香子(洗馬小) 橘 幸恵(塩尻東小)

井出宏幸(橋川中) 白井明子(生坂小)

#### 事業部

##### 会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行。

◎小澤弘明(生坂中) ○百瀬みさ子(宗賀小)

藤澤佳子(広丘小) 下沢孝司(塩尻中)

横山貴士(丘 中) 常田清絵(山形小)

松本直美(麻績小) 坂口弥生(筑北小)

##### 資料室委員会

教育会所蔵資料の整理・目録づくりと寄贈図書整理

◎小沢智子(麻績小) ○森 信幸(塩尻東小)

高山久雄(木曾橋小) 飯田大輔(塩尻中)  
高志由香里(塩尻西小)  
**情報ネット委員会**  
教育会ホームページコンテンツの検討および構築。

◎横山卓朗(塩尻東小) ◎龍野 守(洗馬小)  
小池 明(広丘小) 児玉充司(塩尻西部中)  
**特別委員会**  
**あり方委員会**  
公益社団法人として教育会のあり方。

◎赤津勝広(宗賀小) ◎横山卓朗(塩尻東小)  
◎滝沢聖二(朝日小) 仲 弘久(聖南中)  
細山和寿(広陵中) 大沼田眞理子(広丘小)

**二 県外視察・自主研究**

◎波場 智美(坂井小学校)  
埼玉県所沢市内の小学校  
◎宮下智恵美(筑北中学校)  
お茶の水女子大学附属中学校・高等学校  
高坂由美子(塩尻西小学校)  
筑波大学附属小学校

◎田中真由美(麻績小学校)  
全特連・発達障害教育夏期セミナー(千葉市)  
◎前山 夕貴(宗賀小学校)  
明治大学子ども・専門講座

**自主研究**(信濃教育会「教育論文・教育実践賞」)  
・東筑摩塩尻教育会からも研究助成金が得ますので、ご応募ください。

**三 助成事業**

**教科等研究会**

**国 語**

◎宮川源三郎 ◎峰田由紀子  
・夏期研修会への参加

・長野県国語研究協議会への参加  
・学会誌「信州国語教育」87号 「会報」78号の発行 ・授業研究会  
・作品研究会  
・会員の要望に応じた活動 等

**社 会**

◎櫻井隆夫 ◎小坂寿樹  
・定期総会 ・夏期研修会 ・講演会  
・研究の推進 ・実証授業  
・信州社会科教育研究会・塩筑支部としての活動 等

**算数・数学**

◎工藤敬司 ◎中島 洋  
・教育研究会総会 ・授業研究会  
・読み合わせと学習指導の研究  
・第65回長野県算数数学教育研究大会参加 等

**理 科**

◎松澤貴幸 ◎宮崎みつ枝  
・授業研究委員会 ・実験講習委員会  
・研修委員会 ・会報委員会  
・HP運営委員会 等

**音 楽**

◎高山 雪 ◎塚原まゆみ  
・東筑摩塩尻教育会定期総集会の合唱発表  
・実技講習会(指揮法)  
・授業参観・講演会等の呼びかけ、案内 等

**図工・美術**

◎村上 啓 ◎川船 賢  
・「長野県児童生徒美術展」・「信州子ども絵画百年館」・「花やみどりのある絵」審査  
・「郡展(巡回展)」審査及び作品研究会  
・第70回長野県美術教育研究大会  
・公開授業・授業研究会等への参加  
・松塩筑美術研究会会員作品展  
・立体アート展への協力

・先輩の先生方と語る会  
・「塩筑教育」のカット作成協力  
・「県美術教育研究会会報」への寄稿 等

**体 育**

◎森泉雄二 ◎市川晃一  
・第57回体育学習研究会参加  
・五郡市共催体育学習夏期研究会参加  
・第57回長野県学校体育研究大会参加  
・五郡市共催体育学習研究会・講演会参加  
・塩筑授業研究会の案内  
・体育学習研究 等

**技術・家庭**

◎田畑卓朗 ◎大槻裕司  
・技術・家庭科教育研究大会への参加 等

**英 語**

◎勝野雅文 ◎宮原 舞  
・英語教育研究会  
・小学校英語活動研修会 等

**道 徳**

◎上條合子 ◎手塚俊彦  
・授業参観・授業研究会  
・松本市道徳教育研究会夏期研修会  
・長野県道徳教育研究会大会参加 等

**特活(学級作り)**

◎横山卓朗 ◎児玉貴久子  
・研究会等

**哲学研究会(コスモスの会)**

◎高坂 徹 ◎塩原いずみ  
・信教生涯学習講座「哲学の道」研修会  
・松本哲学同好会との合同読み合わせ会 等  
・自主研修「教育の心を学ぶ」  
・座禅会の参加

**文化財**

◎山中秀樹 ◎小山敏雄  
・臨地研修会 等

**書写書道**

◎窪田尚幸 ◎塩原義郎

・県児童生徒美術展「習字の部」審査  
・長野県書写書道研究大会への参加  
・「塩筑教育」(会誌)での誌上作品展 等

**学校園**

◎柳生高広 ◎小松秀樹  
・野菜農家の見学 等

**保 健**

◎両角啓子 ◎長谷川亜貴子  
・講師を迎え、日々の実践に活かせる研修会の開催 等

**カウンセリング**

◎小沢智子 ◎可知貴彦  
・児童・生徒理解の基礎と教育相談研修  
・研究会・研修会 等

**情報教育**

◎赤津勝広 ◎下平良洋  
・研修会 等

**総合的な学習の時間・生活**

◎赤羽久人 ◎金井亜希  
・県総合生活研究会夏期研修会  
・総合生活研究会県大会 等

**発達障害支援教育**

◎縣 邦彦 ◎島村優子  
・講演会の実施 ・事例検討会 等

**編 集 後 記**

◆◆◆ 一学期も残りわずかになってきました。本年度も会報を通し、会員の皆様の相互理解を深められるような編集を目指してまいりたいと思います。お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

